



球陽高校  
SSH通信

Vol.41(2019.2.28)

# 科学上達

発行：沖縄県立球陽高等学校・球陽中学校 SSH研究開発部

偉人の言葉

取り返しのつかない大きな失敗をしたくないなら、早い段階での失敗を恐れてはならない。

湯川 秀樹(ノーベル物理学賞受賞者)

## iCeMS Caravan ～学びのカラクリ～

京都大学の先生方に最先端の研究を紹介してもらいました！

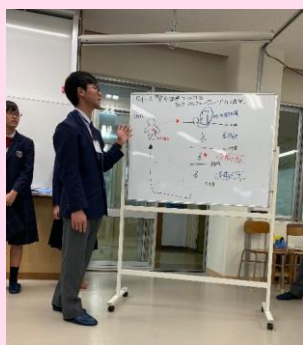
### iCeMS Caravanとは？

京都大学高等研究院 物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS) において分野を超えて一緒に研究している科学者で議論し、なぜ私たちは研究を楽しく感じるのかを突き詰め、その本質を体験してもらう教育プログラムをつくりました。

### iCeMSとは？

京都大学高等研究院 物質-細胞統合システム拠点 (Institute for Integrated Cell-Material Sciences; iCeMS) は細胞生物学、生化学、材料科学、生物物理学、生体組織工学などの多様な分野の研究者が集う研究拠点です。

### メイン会場 (ラボ室) の様子



勝田陽介  
助授



古川修平  
准教授



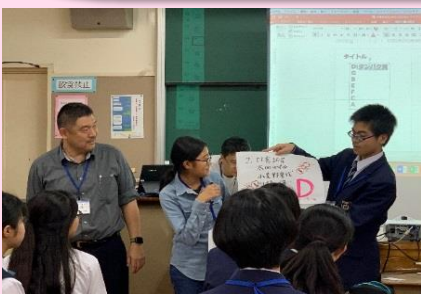
鈴木淳  
教授



ダニエル・バック  
ウッド  
講師



### ミラールーム (サブ会場：被服教室) の様子



2月16日(土)に、本校ラボ室と被服教室で『iCeMS Caravan～学びのカラクリ～』がiCeMSの方々によって行われました。メイン会場の様子をビデオでリアルタイムにサブ会場で放送しました。本校生徒のみならず、保護者の方や県内外からの学校関係者、開邦中学校の生徒が参加しました。

マッシュマロチャレンジというアイスブレイクから始まりました。その後、4人のiCeMSの先生方によるDNAをテーマとした最先端の研究の紹介がありました。参加者は、紹介してもらった最先端の研究の知識を使って、「こういうものがあたらいいな」と思うことをグループで話し合い発表しました。生徒から「豊かな発想力こそが、研究員にとって必要なんだな」との声があり、良い経験をすることができ、今後の励みになったようです。